



日本聖公会  
大阪教区教務局  
〒545-0053  
大阪市阿倍野区  
松崎町2-1-8  
TEL 06-6621-2179  
FAX 06-6621-3097  
発行責任者  
教務局長 司祭 原田光雄

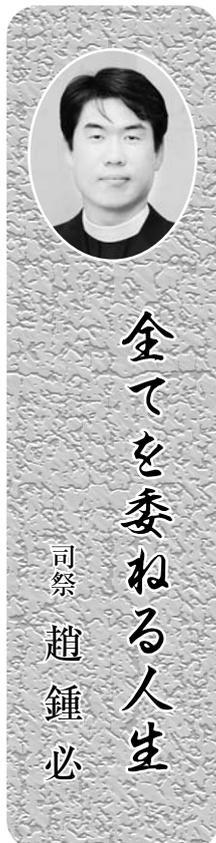
〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 [office.osaka@nsk.org](mailto:office.osaka@nsk.org)

第408号 2009年8月9日発行

「旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、ただ履物は履くように、そして『下着は二枚着てはならない』と命じられた。」

〔聖霊降臨後第6主日（特定10）マルコによる福音書6・7-9〕

皆さんのお祈りとご指導に支えられ、大阪教区の新しい司祭に加えていただきました。皆様と常に導いてくださる神



### 全てを委ねる人生

司祭 趙鍾必

様に感謝いたします。

さて、この福音書で、イエス様は愛する弟子たちを2人ずつ組にして遣わすことが記されています。それは、イエス様が「狼の群れに小羊を送り込むようなものだ」と言われるほど、大変なミッションでした。その大変なミッションには、あれやこれやと準備しても足りないほどである、と私たちは思ってしまうかもしれませんが、イエス様はそ

の旅に何も持たずに行きなさいとおっしゃるのです。お金も、パンも、下着さえも、更にルカによる福音書では杖一本さえも許してくださいませぬでした。当時の杖というのは、道で出逢うかもしれない獣のような外敵から、自分の命を守る頼りになるものです。それさえも持たずに派遣されるというのには、「命をかけなさい」、「ひたすら神様だけを信

じて頼りなさい」という意味なのです。

すなわち、イエス様は神の子に人生の道のすべてを頼り、神様に委ねる生き方を要求されたのです。これがまさにこの世に派遣された私たちの生き方なのです。

本日の福音書を読んで私たちが黙想すべきポイントは、私にとって何が神様との関係の邪魔立てをしているのかを悟ることです。すなわち、全

てを委ねる」とはどういう意味かを考える個所です。ある牧師のたとえ話を通して自分のことを考えて見ましょう。『ある信仰深い牧師が一人で山登りをしました。どんどん進むうち、深い谷あいに入ってしまった。道に迷ってしまった。日も沈み、急に雨も降り始め、何も見えなくなりました。彼は突然足を踏み外して絶壁から谷底に落ちてしまいました。辛うじて木の枝をつかんで助かった彼は、ぶら下がっている状態で神様に切に祈り始めます。「神様救って下さったら心から悔い改めてあなたに従います。助けてください。」彼は必死に祈りました。何分経ったでしょうか、牧師の力が無くなりそうになった時、神様の声が聞こえました。「子よ、手を放せ」。彼は驚き、声が聞こえた方に向かってもう一度叫びました。「助けて下さい」と。するとまた同じ声が聞こえました。「子よ、手を放せ」。この声を聞いた牧師は、絶望感を感じ、とめどなく涙を流しながら、家族

と愛する人々を心に浮かべながら最後の瞬間を迎えます。

彼は「神様！従順に仕えてきたのに、どうして救って下さらないのですか？」と考えながら絶壁から落ちました。彼がどうなったのでしょうか。実は、彼がぶら下がっていた木の枝は地上から5メートルほどの高さしかなかったのです。奇跡的に助かったのです。嵐が吹きすさぶ暗い夜だったので下が見えなかっただけでした。」

人生に悩み、旅立つことが出来ずに戸惑っておられる人はいないでしょうか。それとも旅の途中に足を踏み外して、絶壁の枝にぶら下がっておられるような人はいないでしょうか。神様に頼る代わりにいつも頼っているものとは何でしょうか。自分にとって、神様の教えに逆らいながらも放すことが出来ないその枝、必死になってつかんでいるその枝は、自分にとって何の意味が有るのかを黙想してみたいと思います。

（チョウ ジョンピル・主教 座聖堂付）

60歳を過ぎてこれからの人生をどのように過ごそうかと思っていた矢先、自宅の裏の空き地で家庭菜園をしている方がおられ、私も仲間に入れてもらいました。さっそく葱とさつまいもを植えました。失敗でした。今度こそはと意気込んでいましたが、お借りしていた土地が売れてしまいました。

していると体が浄化されていくみたいで、なんとも言えない気分になります。コリントの信徒への手紙Ⅱ 9章6節の言葉を思いながら種を蒔き感謝をもって収穫し、そして多くの方に喜んでいただいています。それがまた私の励みにもなり嬉しく心豊かになります。神さまは多くのものを創られました。そして

さな商店がありました。そんな時代、祖父は八ヶ岳、富士山、ドウダンつつじの群落をながめ「この雄大な自然、いいだろう、みんな神さまが私に、みんなに与えてくださったのだよ。そしてイエスさまがいつも私のそばにいて下さる。なにも心配する事なんかありやしない。有りがたいことだよ。

### 主と共にあゆむ 3 神さまからのプレゼント

サムエル 山本 勝彦

そんな時、私の住んでいる河南町の山間の土地を借りる事が出来、開墾をはじめました。大自然の中、イノシシ、狸、いたち、カラス等との知恵比べをしながら、順次畑を広げました。しかし今の広さ、450坪が労働、管理の限界だろうと自分に言い聞かせているところ。あくまで趣味です。楽しく畑仕事をし

聖書には動物、植物の話がたびたび出てきます。畑のまわりの草花、山菜、野鳥のさえずり等に季節を感じ、神さまが造られた自然の偉大さにつぶりとつかりこんでいる状態です。むかし、清里に住んでいた祖父が度々言っていた言葉が思い出されてなりません。それは40年も前のことで、駅舎は木造、駅前には、5、6軒の小

ら言っていました。清里に行くたびになんと聞かされた言葉でしょう。当時の私の心を読みとっているように、またか？と思ったりしたものです。いま畑に立ち祖父の言葉を思い、神さまからの大きなプレゼントに心から感謝しています。(やまもと かつひこ 富田林聖アグネス教会信徒)

## 日本聖公会婦人会 第2回会長会

### 主教座聖堂に10教区会長ら集う

去る6月3日(水)、4日(木)、日本聖公会婦人会第22(定期)総会後第2回会長会が大坂教区主教座聖堂(川口基督教会)で開催され、全国10教区の会長と傍聴者、役員会、ゲストなど総勢36人が出席した。

議では、運営委員会委員長に井上美津さん(大阪教区・2期目)を承認し、今後2年間の被献日献金活用の対象者に国連女性会議参加者を加える議案、2009年度コア運営費並びに一般会計予算補正の議案を原案通り可決した。感謝箱献金お献げ先については、横浜教区婦人会から提出されたガザのアハリ・アラブ病院支援を修正案で可決し(50万円を2年間)、運営委員会提出の南インド・ダリッド女性を支援する「ニームの会」への提案(20万円を2年間)を原案どおり可決した。

開会聖餐式で始まった会長会は、会館3階で議事に入り、活動報告、2007年度会計報告が行われた。議案審

議事終了後、さらに約1時間の意見交換を行い、「息吹きをうけて・第2集」残冊の処理などを検討。被献日献金の2010年度教区婦人会枠については、10教区6万円ずつ支援することを追加議案で承認した。夕食後はワークショップと分かち合いの時をも



ワークショップ風景

(次頁最下段につづく)

# 教区婦人会旅行での思い出

マリヤ 櫻井 揚子

今年の5月21日の教区婦人会総会后、婦人会会長に任命され、何も解らない私で務まるのかと少々不安な気持ちでお受けしました。石橋聖トマス教会の信徒です。山本登司祭のもと荘園で青年時代を過ごし、結婚後は転宅が多くトマスを出たり戻ったりでした

が最近の20年ほどはずっとお世話になっています。チャプレン内田望司祭のご指導のもと副会長の槻本清子さん、各教会代表者の方々と共によく話し合い、よく考え合っています。楽しいことは解りませんが、楽しい婦人会・代表者会にし

たいです。やって良かったと皆で思えるようにと願っています。皆様のお支え、お祈りを直しくお願いいたします。

6月10日より教区親睦旅行へ。八ヶ岳高原と清里方面への2泊3日の旅で、大西主教ご夫妻、原田光雄司祭、チャプレン内田望司祭、趙鍾必新司祭と参加された総勢96人の婦人達が、2台のバスに分乗して行つて参りました。

(5頁につづく)



会長の櫻井さんと副会長の槻本清子さん(右)



## 「ララ」の死

「ララ」は名古屋コ1チン3歳の雌、新潟県長岡市の保育園で園児と一緒に、ひよこの時から可愛がって育て、その産んだ卵を給食で使ったりもした。

名古屋への引っ越しも車で同行。その二代目は主教座聖堂の玄関前の木

陰の鶏小屋で半ば放し飼い、車の通る道路を横切り、向かいの柳城短大の庭へも散歩に出かけ、学生や信徒の人気者であった。

大阪へも昨年9月、一緒に引っ越して来て、主教館の庭で10カ月を過ごした。環境の変化にも慣れ、春頃からまたポツポツ卵を産み始めた。

しかし、7月12日、朝元気だったが、主日礼拝から戻っ

てみると鶏小屋の奥でうずくまっていた。

「ララ」の死は、優しさと思いやりに欠ける自分自身に気付かされ、愕然とさせられた出来事であった。自分は、冷房の効いた涼しい部屋にしながら、炎天下、直射日光のあたる鶏小屋の中で「ララ」は息も絶え絶えであることに気付くのがあまりにも遅すぎた。なぜ、もっと早く鶏小屋を涼しい木陰に移してやらなかったのだろうか？

ヨナの不平不満が脳裏に浮

かんだ。ヨナ同様、わが身のことだけに気を配り、他者の苦しみ、悩み、痛みに驚くほど鈍感な自分の姿。

鏡に映らないその姿に気付かせてくださる主イエスに、もう一度しっかりと目を向け、その目で人々と共に生きていくことの大切さを思い知らされた熱い出来事であった。

(主教 サムエル 大西修)

(前頁よりつづく)

ち、日本聖公会婦人会のしくみ、感謝箱献金の歴史と内容、被献日献金について、グループに分かれて学んだ。

2日目は、朝の礼拝、第53回国連女性の地位委員会に出席された佐々木紀久江さん(バーンサバイ友の会、東京教区)の報告に続き、被献日献金申請の審査が行われた。13件あった申請のうち、神学生枠7件、有志グループ3件の支援を了承した。2回目となる今年度は被献日献金への申請数も増え、情報の広がりを感じたが、同時に様々な問題点も浮かび上がってきた。

午後1時の閉会の祈りで、2日間の日程を無事終了。

2007年にしくみが大幅に変更された日本聖公会婦人会は、被献日献金申請制度も含め3年間の実施の後、来年度総会で不備を見直すことになっていく。大阪教区が担当している本役員会の任期も、あと1年となり、具体的な見直し作業など、総会に向けて正念場を迎えることになる。

(日本聖公会婦人会役員会)



## 大阪・京都教区 合同教役者修養会 教区間協働など話し合う

司祭 施洗者ヨハネ 山本 眞

京都教区との合同教役者修養会が去る6月22日(月)から24日(水)まで京都府宮津市において開催された。今年で5回目となる。大阪教区からは大西主教以下10人、京都教区からは高地主教以下26人の参加で、宮津ロイヤルホテ

ルと宮津市中央公民館、宮津聖アンデレ教会を会場として親しい交わりと有意義な学び・意見交換が行われた。

初日は、両教区主教による「教区間協働について」の発題、夕食後は4グループに分かれて、それぞれの働き

の現場からの分かち合いを行った。5年目ともなると、教区が違ってもお互いに少しは事情がわかって来てはいるのだが、たとえば田宮絃執事の釜ヶ崎での働きについての生の声に励まされ、京都教区の若い教役者たちに元気づけられる楽しいひとときであり、時間の経つのも忘れるほどであった。

翌日は、両教区の常置委員会からそれぞれの教区の課題に

### 宣教協働に関する合意書

大阪教区と京都両教区は、これまでの宣教協働関係を推進するために、以下のことを合意する。

1. 大阪・京都両教区が、これまでの宣教協働関係(合同教役者会、合同聖職養成委員会、礼拝に関する合同の研修会など)を推進する。
2. 日本聖公会第57(定期)総会の決議に基づき、取り組んだ宣教協働の課題について総会において報告する。
3. 毎年、大阪・京都両教区間で、宣教協働についての評価会を開催する。
4. 今後の課題の一つである人事交流について、両常置委員会で検討し、推進する。
5. 大阪・京都両教区が他教区との協働関係を持つことは妨げない。

以上

救主降生 2009年6月24日

日本聖公会大阪教区 教区主教 サムエル 大西 修 敬  
日本聖公会京都教区 教区主教 ステパノ 高地



調印式の大西主教(左)と高地主教(右)

についての報告があり、また京都教区の荒木太一執事による「聖公会契約(誓約)」(The Anglican Communion Covenant)についての解説が行われた。これは2004年のウインザー・レポートで提起されたことであるが、全聖公会が直面している不一致から回復し、「共にある」ことを目指そうとするための一つの「道具」なのだ、という荒木執事の言葉が心に残っ

た。大阪教区では今まで取り立ててこのことの学習会などを行ってこなかったが、今後取り上げる必要がある問題であろう。午後は、自由な観光の時間、いくつかのグループで天橋立や伊根湾観光を楽しんだ。ひたすら釣りに精を出す京都教区の若手もおられたし、この時とばかりにホテルでのんびり過ごす老体もおられた。最終日は、両教区の「宣教

協働に関する合意書」への両主教による署名と捺印が行われたあと、参加者全員の思いの分ち合いの後、宮津聖アンデレ教会に場所を移し、閉会聖餐式を高地主教司式、大西主教説教で献げ、散会した。大阪教区からは、学校のチャプレン職の聖職が参加できなかったのは残念であった。(やまもと まこと・菅屋聖マルコ教会牧師・教役者会幹事)



教区婦人会旅行での思い出 (3頁よりつづく)

1号車は大西主教のお祈りで旅の始まり、駒ヶ根SAで昼食、サントリー白州工場を見学、八ヶ岳ロイヤルホテル着。2日目は午前10時から清里聖アンデレ教会で聖餐式(写真)、説教は横浜教区の島田征吾司祭。ポール・ラッシュ氏により1948年に清里農村センター、清里聖アンデレ教会が完成したそうです。

礼拝堂はまわりと後部に椅子席がありますが豊席が殆どで、その理由は誰もがいつでも入ってきやすいようにと考えてのことだそうです。祭壇の横の石は立教大の学生が下から運んできたそうです。このすばらしい礼拝堂で、新しい気持ちで聖餐式に与ることができ感謝でした。礼拝後はバスを利用したり歩いたりしながら清里を見学し、自然の恵みをいっぱい感じつつ散策しました。夕食後に趙司祭の韓国での司祭按手式の様子をビデオで観せていただき、あと黙想の指導をしていただきました。3日目はフラワーセンターへ足を運び、バラの香りいっぱい園内を散策いたしました。当日は好天気です、八ヶ岳も見えてゆつくりとした気持ちの良い時間を過ご

させていただきました。その後はバスで帰路についたのですが、12日は主教夫人のお誕生日でしたので、車中でお祝い出来たのも嬉しいことでした。感謝なことにこの旅行を通して、普段出来ない他教会の方々と親睦も深めることが出来ました。お世話をして下さった聖ヨハネ教会の方々ご苦労様でした。すべてのことについて、感謝いっぱいの旅でした。(さくらい ようこ 石橋聖トマス教会信徒)



# 日本聖公会 宣教150周年

## 記念プログラム

### 「みんな集まれ！」

日時：9月22日(火・祝) 11時から18時

会場：立教大学池袋キャンパス

夕の礼拝 説教：米国聖公会 キャサリン・ショーリ総裁主教

## 記念礼拝

### 「こぎ出せ、沖へー」

日時：9月23日(水・祝) 13時30分から

会場：東京カテドラル聖マリア大聖堂

説教：ローワン・ウィリアムズ カンタベリー大主教

## キャリアプランニングセミナー ダイジェスト・コース

日時：8月31日(月) 10時～16時

会場：守口復活教会

参加費用：800円

参加申込み：e-mailにて  
myamanoue@hotmail.com まで

- ①名前 ②所属教会名 ③大学名・学年
- ④連絡先電話番号

を記入し申込むこと。

締切：8月20日

主催：大阪教区宣教部生涯学習委員会

大阪北宣教ブロックの働き

5 教会男子会が交流会

野知 卓司

6月21日の午後、梅雨の晴れ間に恵まれ、大阪北ブロック5教会の男子会メンバーが三々五々大阪聖ヨハネ教会に集まりました。この日は、恒例になった5教会男子会の第7回目の交流会が行われる日

でした。2003年に川口基督教会、大阪聖パウロ教会、大阪聖ヨハネ教会の3教会男子会で始まった交流会に、聖贖主教会と守口復活教会が加わり、毎年の当番を川口・ヨハネ・パウロ・守口・贖主と



順番に受け持ち、今年は大阪聖ヨハネ教会が2回目の当番に当たりました。

今回の参加者は川口10人、パウロ4人、贖主3人、守口4人、ヨハネ8人の29人（聖職者は宇野主教、内田司祭、趙司祭、坪井司祭、山野上司祭）でした。第一部「話し合いの時」、第二部「懇親の時」のプログラムで、各教会男

子会会長から、それぞれの教会での活動状況やトピックスを紹介していただきました。引き続き、5月27日

に司祭按手を受けられたヨハネ教会の趙司祭に記念講演をしていただきました。

大韓聖公会ソウル教区大聖堂で行われた按手式の様子を写真とビデオをスクリーンに写して見せていただきました。大変立派な大聖堂で一度に12

人も司祭按手が行われ、100人を超える聖職者が集い、多くの信徒の見守る中で式の様子を見ることができました。その後、趙司祭が韓国で学ばれ、ご自分でより深く研究されている黙想についてお話されました。わかり易くビデオにまとめた映像と語り（ナレーターはヨハネ教会信徒の秋山公子姉）そして趙司祭のお話があり、ビデオを見ている間は右手を握り締め、右手がなえた状態を想定し、最後にその手がイエス様によって自由にされ伸ばす事ができるようになる体験を交

えながら、映像と音楽とナレーションの不思議な世界を堪能させていただきました。

第一部の最後は「北ブロック男子会が実践する宣教活動」をテーマに約1時間のフリートーキングを行いました。参加の皆さんには、一般の教会会後に行われた宣教懇談会の資料を抜粋してお配りし、参考としていただきました。短い時間でしたので、特に結論を出すということではなく、お互いの考えを述べ合い、聴き合って理解を深めることを旨としました。それでも、この話し合いの中で次のことがコンセンサスとなりました。（1）守口で行っている「プラスワン運動」を各教会でも検討してみる（2）礼拝を共に行う試みを広げる（3）合同の教会委員会ができませんかを検討する（4）緊急事態（葬式等）への対応をブロック内で協力する体制を検討する（聖職者だけでなく信徒も）。

第二部では、ヨハネ教会婦人会の10人以上の御婦人たちにより用意された手造り料理を、冷たい飲み物とともに堪能

能いたしました。川口教会男子会長の食前のお祈りで始まり、盛りだくさんの料理に舌鼓を打ち、のどを潤して、参加者一人ひとりの自己紹介を交えながら楽しい歓談の時を過ごしました。男子会は教会のご婦人達の支えがあつて成り立っているのだと改めて深く感謝した次第です。（のち たくじ 大阪聖ヨハネ教会信徒 男子会長）

第6回 学びと祈りの集いのお知らせ

テーマ 「パウロ：迫害者から伝道者へ」  
講師 和田幹男神父 (カトリック北摂ブロック司祭)  
日時 9月20日(日) 14時~17時 無料  
会場 大阪聖アンデレ教会

主催 超教派クリスチャン信徒連盟 カトリック大阪大司教区エキュメニカルチーム

# パレスチナとイスラエルの大地に共生を 現地から2人を招き講演会

ヨハネ 山口 善彦

4月22日現地からお二人の講師をお招きして、大阪教区宣教部主催で大阪城南キリスト教会にて講演会・交流会が開かれました。

ジェフ・ハーパーさんはイスラエルの文化人類学者で「家屋破壊に反対するイスラエル委員会」のコーディネーターをしておられる。もともと地理的歴史的にこの地はパレスチナ人もユダヤ人も平和的に共生してきました。度重なる紛争のあと、1993年にオスロ合意が成立し、パレスチナとイスラエルの2国家設立が現実的解決策だと世界も認めました。ハーパーさんは、「イスラエルの占領政策はこの2国家解決案を骨抜きにしてきた」と言われます。その根底にあるのは、イスラエルがパレスチナ人をアラブ人と呼び、民族として認めない。もう一点は「自国の安全」

のためには国際法を無視してでも身勝手な行動をする。

パレスチナ人の家屋の新築増築は認めない一方、ユダヤ人による入植地の拡大、高速道路、隔離壁、600の軍事

検問所によりパレスチナは西岸北部・中部・南部とガザの4つに分断され、国家としての領土の連続性が確保されていない。とても自立的な国家とはいえず、イスラエルに完全に管理された国家でしかない。これがパレスチナ国家の姿だ。

ナウム・アティークさんはサビール・解放神学センターの代表で、占領に加担するイスラエル企業からの資本の引

き上げ運動をしてこられた。ご自身は1948年に難民になり司祭として長年の活動をしてこられ、イスラエルの占領政策によりキリスト教徒は1914年には10%、今では2%しかない、とのこと。

彼は、パレスチナの土地は神がユダヤ人に約束したとするユダヤ人の信仰に対し、この土地に住む全ての人の上に神の愛がある、と主張される。平和的共存を目指して、キリ

ストの教えに従い、非暴力で占領への抵抗運動を通して自立的なパレスチナ国家の樹立を目指したい、といわれた。  
\*後日談 〓ハーパーさんは6月8日に、ヘブロン近郊の村で井戸を破壊しようとするイスラエル軍に抵抗して拘束されましたが、早くに解放されたとの情報がありました。  
(やまぐち よしひこ 大阪 聖三一教会信徒)

## 芦屋聖マルコ教会で

## 「広河隆一パレスチナ取材写真展」

佐治 雅子



昨年12月27日からはじまったイスラエル軍によるガザへの進攻はパレスチナ人1300人(内子ども400人)の死者、5300人(内子ども1900人)が負傷と、ホロコーストに匹敵する殺戮が行われました。

しかし、この殺戮は60年にわたるパレスチナ人の苦難の1ページにすぎません。わたしたち芦屋聖マルコ教会がバ

レスチナに関心をもったのは、この問題に長く関わってこられた岩浅氏(東京聖マリア教会信徒)からパレスチナの話聞いたことがきっかけです。教会でも子どもたちの支援活動に関わるようになり、活動を通してこの苦難が日本の私たちの目に正しく届いていないことを知りました。そこで、「パレスチナ子どものキャンペーン」の方々と一緒に教会で写真展を開催しよう!ということになりました。3日間の開催中188名が入場されました。マルコ教会信徒・賛同団体の方々・幼稚園卒園生・近隣の方々・学生・他教会の

信徒の方々:多くの方々の来訪に今までと違った教会の役割を感じました。アンケートには「多くの命が奪われていることを知った」「本当に今もこんなことが行われているの!」「日本は憲法9条をもつ国として、国際貢献してほしい」「理不尽」と思い思いの感想が述べられていました。そして私たちにできることは「平和をつくる」ために人々に教会から「命の尊さ」を発信することではないかと今回の写真展で実感しました。  
(さじ まさこ 芦屋聖マルコ教会信徒)

# 韓国の社会宣教からの学び

執事 アンデレ 田宮 紘

2009年6月8日から12日まで「日本聖公会第1回韓国スタディ・ツアー」に参加した。ほとんどの教区から参加者がありスタッフを含め18人であった。内容は「地域に密着した宣教活動の多様性に学ぶ」ということであった。韓国聖公会の40人以上の聖職が教会ではなく社会宣教にか

かわっているという。多くの地域でその地域の必要に応じた多様な活動が行われていた。たとえば、南揚州教会では元ハンセン病患者の定着村だったところに、多くのアジアからの外国人労働者が住みつき、教会がその地域の人々を支援するために外国人労働者福祉センターを運営している。



その増築中の施設の立派さに驚いたが、さらに地域の人々の思いを知り、バスケットボールのコートを作るといふ。外国人の郷里ではバスケットボールが盛んだからという。タシソギセンターの地下には食堂があり給食活動がなされていた。日本の炊き出しとは比べようがないほど食事内容も食事する環境

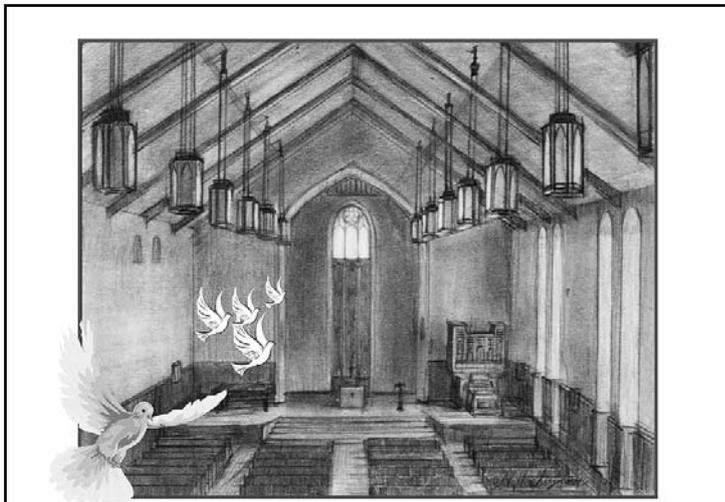
も充実している。その食堂の奥にある夜間大学では、開講前で真剣に予習している若者に出合った。学歴社会にあって勉強することが一番必要なのだが、貧しい地区の若者に学ぶ場所を提供するだけでなく、大学の教授を招聘しているという。この施設の上の階にはシエルターがあり日本のシエルターよりは整ったよい環境であった。さらに安心して眠ることができるのは、根拠のない警官の立ち入りを拒否する毅然としたスタッフの姿勢である。地域社会で活動するといふことは単なる憐れみや施しではない。地域の人の思いを知り、その思いに込めようとするスタッフの熱い情熱

も充実している。その食堂の奥にある夜間大学では、開講前で真剣に予習している若者に出合った。学歴社会にあって勉強することが一番必要なのだが、貧しい地区の若者に学ぶ場所を提供するだけでなく、大学の教授を招聘しているという。この施設の上の階にはシエルターがあり日本のシエルターよりは整ったよい環境であった。さらに安心して眠ることができるのは、根拠のない警官の立ち入りを拒否する毅然としたスタッフの姿勢である。地域社会で活動するといふことは単なる憐れみや施しではない。地域の人の思いを知り、その思いに込めようとするスタッフの熱い情熱

を感じることができた。それは、貧しく弱い人々の現場に來られ、正義と平和が実現する神の国を宣べ伝えられたイエスに倣うことでもある。このような活動の背景には、

韓国民主化のために果たしたキリスト者の働きを忘れることはできない。ツアー第1日の午後には、民主化運動に生涯を捧げた文益煥牧師の墓や、横に並ぶ聖公会の学生、また獄中で拷問を受けて水死したことが明らかになった若者の墓などを訪れる機会があった。現代韓国の社会はその負った痛みなしには成し遂げることができなかったのである。民主化によってできた権が、聖公会が運営する施設に多額の費用を提供している。保守政権下でもこの政策が続けられることを願った。

(たみや ひろし・釜ヶ崎宣教担当)



## 日本聖公会 大阪教区 教区礼拝

— 来ませ 平和の王 —

2009年10月18日(日) 10時30分～(聖霊降臨後第20主日)

場所: プール学院清心館 (JR環状線桃谷下車)

司式者: 大阪教区主教 サムエル 大西 修師父

説教者: 司祭 ステパノ ユシギョウ 柳 時京 (立教学院チャプレン)

# 沖繩週間 平和に向かっ ての旅立ち

司祭 サムエル 福田 光宏

6月19日(金)午後1時那覇空港集合、3泊4日の「沖繩の旅」が始まりました。最初に訪れたのは壺屋博物館で、沖繩の戦前戦後の生活に触れました。陶器の手榴弾には、太平洋戦争末期の沖繩決戦の

悲慘さを思わずにはおれませんでした。午後5時からの池住義徳氏の講演は大変迫力のある内容で、大阪教区の皆さんにも是非聞いて頂きたいと思いましたが、「航空自衛隊の空輸活動は憲法違反と法律違反と断罪！」との判決を勝ち獲た瞬間の感激を、新聞やテレビでおなじみの「勝利！」垂れ幕を手にして再現してくださいました。平和憲法を維持するには、大変な忍耐の積み重ねが必要だと

いうことを、しみじみと思い知らされました。実質的な国側の違憲判決を受け、国は早速最高裁判所の裁判官の一人に「竹内行夫氏」を送り込み、判決を逆転させることを目論んでいるとのことです。次期総選挙には必ず「竹内行夫氏」には「×」印をつけるよう、また機会があれば、一人でも多くの方に「×」をつけてくださるよう、宣伝して欲しいとのことでした。

2日目はいよいよ「辺野古新基地建設阻止活動に参加」というプログラム。基地建設予定地は実に美しい海でした。その美しい海に向かってテントが建てられ、地元の漁師さんたちが交代で座り込み、待機しておられるのです。我々が到着する間もなくヘリコプターが飛来してきましたが、それほど監視が徹底しているということのようです。漁師さんたちの見張りが長く続いたため、ある日突然午前5時に杭打ち作業の一団が現れて杭打ちが始まろうとしたそうです。緊急に連絡を取り合い、漁船を集め、身を張って杭打ちを防止されたとの由。それでも4本ほどの杭が打たれてしまったそうです。それから一日も欠かすことなく、テント内に数名が待機し続けているそうです。

基地反対のための「命を守る会の闘い」は、ジュゴンの棲息する素晴らしい自然を守る

り抜くための戦いであることを実感させられました。美しい自然を守ること、大気汚染を防止すること、全人類の食料や水を確保すること等こそが、わたしたちが生かされている宇宙の平和を維持することなのだ、大いに学ばせていただきました。

「航空自衛隊の空輸活動は憲法違反と法律違反と断罪！」との判決を勝ち獲た瞬間の感激を、新聞やテレビでおなじみの「勝利！」垂れ幕を手にして再現してくださいました。平和憲法を維持するには、大変な忍耐の積み重ねが必要だと

いうことを、しみじみと思い知らされました。実質的な国側の違憲判決を受け、国は早速最高裁判所の裁判官の一人に「竹内行夫氏」を送り込み、判決を逆転させることを目論んでいるとのことです。次期総選挙には必ず「竹内行夫氏」には「×」印をつけるよう、また機会があれば、一人でも多くの方に「×」をつけてくださるよう、宣伝して欲しいとのことでした。

基地建設予定地は実に美しい海でした。その美しい海に向かってテントが建てられ、地元の漁師さんたちが交代で座り込み、待機しておられるのです。我々が到着する間もなくヘリコプターが飛来してきましたが、それほど監視が徹底しているということのようです。漁師さんたちの見張りが長く続いたため、ある日突然午前5時に杭打ち作業の一団が現れて杭打ちが始まろうとしたそうです。緊急

に連絡を取り合い、漁船を集め、身を張って杭打ちを防止されたとの由。それでも4本ほどの杭が打たれてしまったそうです。それから一日も欠かすことなく、テント内に数名が待機し続けているそうです。



北谷諸魂教会にて

は憲法違反と法律違反と断罪！」との判決を勝ち獲た瞬間の感激を、新聞やテレビでおなじみの「勝利！」垂れ幕を手にして再現してくださいました。平和憲法を維持するには、大変な忍耐の積み重ねが必要だと

いうことを、しみじみと思い知らされました。実質的な国側の違憲判決を受け、国は早速最高裁判所の裁判官の一人に「竹内行夫氏」を送り込み、判決を逆転させることを目論んでいるとのことです。次期総選挙には必ず「竹内行夫氏」には「×」印をつけるよう、また機会があれば、一人でも多くの方に「×」をつけてくださるよう、宣伝して欲しいとのことでした。

基地建設予定地は実に美しい海でした。その美しい海に向かってテントが建てられ、地元の漁師さんたちが交代で座り込み、待機しておられるのです。我々が到着する間もなくヘリコプターが飛来してきましたが、それほど監視が徹底しているということのようです。漁師さんたちの見張りが長く続いたため、ある日突然午前5時に杭打ち作業の一団が現れて杭打ちが始まろうとしたそうです。緊急

に連絡を取り合い、漁船を集め、身を張って杭打ちを防止されたとの由。それでも4本ほどの杭が打たれてしまったそうです。それから一日も欠かすことなく、テント内に数名が待機し続けているそうです。

## 世界の窓

◎オーストラリア首相、ローマの聖公会センターを訪れる  
イタリアでのG8首脳会議の折りに、オーストラリア首相ケビン・ラッド氏がローマにある聖公会センターを訪問した。同センターは世界のキリスト教会の相互理解と結束を目的として建てられており、特に聖公会とカトリックという最も世界的な宗派の共働を促す存在である。また、聖公会のみが外交的存在としてローマにある唯一の教会である。ラッド首相は、センター長のリチャードソン司祭と会談し「現在の

世界情勢の中で、宗教がますます重要な役割を果たす必要がある」と語っている。  
(ACNS: ACNS4639 July 10, 2009)

◎米国聖公会総会でのエキュメニズムの進展  
米国聖公会の第76総会において、顕著なエキュメニズムの進展があった。一つはモラビア教会との完全相互陪餐が締結されたことであり、更にイスラム教、ユダヤ教、その他の宗教との異教間の対話促進が総会決議で支援されたことである。

(Episcopal Life on Line July 21, 2009)

ひめゆり部隊生存者

川平カツさんの体験を聞く会

寺村 直子



6月20日(土) 大阪聖パウロ教会にて、「川平カツさんのお話を聞く会」が開かれた。

ひめゆり学徒隊には沖繩師範学校女子部と県立第一高等学校の生徒達290人が看護要員として動員された。そ

の内210人が亡くなられた。今年も6月23日に沖繩慰霊の日を迎える。

川平さんは1928年生まれ、81歳。15歳で沖繩師範学校に入学し2年生の時沖繩地上戦が始まった。1944年10月10日首里の上空から那覇に来て爆弾を落とす。1日中何機という飛行機が来襲。翌年3月23日全土に爆弾。糸満市伊原に壕を掘った。伊原第一外科壕という陸軍野戦病院壕で、そこには重傷患者が集められ看護婦ひとり彼女達看護要員。壕の中は細く長く奥へと掘られて片側に木で簡易ベッドが作られ治療も何もできない。薬も包帯も無く生き地獄の有様だった。食事は一日一回ピンポン玉位のおにぎりだけ。亡くなった人を大きな穴の中に放り込んで焼く。5月の大雨の日解散が告げられ、彼女はひとり死体の上を飛びこえ、上からは飛行機・火炎放射機や爆弾が投げられ

る中を命がけで逃げ南部の壕に着いた。奇跡である。壕にいた友は命の水を飲み、「戦争のない世に生まれたかった。ありがとう。」と言って亡くなった。今でもその声や様子が残って離れない。あまりにも惨く、これ以上は書くことはできない。自決をまぬかれた者、子供達、学生等生き残っている者が集められ、捕虜になり糸満までトラックで運ばれた。

81歳の川平さんはおだやかでやさしかった。戦争で体験した辛さ恐ろしさを胸に秘め、必死で生きてこられただろう。生きていてよかった。息子から孫へと命が伝えられたことが！しかし戦争はゆるせないと思われた。

「ひめゆり」を語り継ぐ夏、私達も太平洋戦争があったという事実を強く受けとめなければと思った。

聖歌423番沖繩戦の詩と曲「命どう宝 小さな命 命

こそ宝 豊かな豊かな命」この聖歌を歌いながら、私の心は癒されていった。感謝します。

(てらむら なおこ 大阪聖愛教会信徒、守口ぶどうのいえ理事)

大阪教区連合男子会結成 45 周年

1 泊 修 養 会

日時 10月11日(日) PM3:00~翌PM3:00

場所 ひょうご いこいの宿 “六甲保養荘”

主題 日本聖公会宣教150周年をむかえて

~今、わたしにできること、わたしたちにできること。

今、わたしに必要なこと、わたしたちに必要なこと。~

講師 大阪教区主教 サムエル 大西 修 師父

費用 1万円 (1泊3食付)

若い方、女性の方も大歓迎

主催 大阪教区連合男子会

「神学生を囲むつどい」のお知らせ

神学生を共に励まそう!

日時: 8月30日(日) 午後3時 ~ 4時30分

場所: 西宮聖ペテロ教会

会費: 無料 (席上献金あり)

主催: 大阪教区神学生後援会

# 教区の動き

## 常置委員会報告

5月12日(第7回定例)

### 1. 主教報告

① 次の3件につき、聖職の参加を認めるとともに、費用は教役者研修資金より拠出する。

\* 5月11日～13日、松平功司祭を台湾聖公会・教区教役者黙想会に出席させる。(招待)

\* 6月8日～12日、田宮紘執事を日本聖公会第1回韓国スタディツアーに参加させる。

\* 6月19日～22日、福田光宏司祭には日本聖公会沖繩週間・沖縄の旅に参加させる。

② 庄内キリスト教会より、牧師館に信徒が居住するため賃貸契約(教区の書式)を交わしたいと要望があったので承認した。なお、期間は6月より1年間とする。

### 2. 教務局長報告

① 5月の(教務局だより)掲載内容について説明。

② 5月31日(日) 聖霊降臨日の信施(海外伝道の日)奉献先として、ガザ地区の子どもたちの栄養補給支援活動に献げることとした。(日本国際ボランティア・センター)

③ 教区の4月一般会計収支につき米虫克次職員より説明を受けた。

### 3. 常置委員長報告

\* 日本国際ボランティア・センター職員、パレスチナ・プロジェクト責任者の藤屋リカさんが聖霊降臨日の信施についてお礼を言うため来阪、川口基督教会、聖テモテ教会(120周年)、プール学院大学を訪問される。

### 4. 協議事項

I. 第6回(4/14) 議事録を承認した。

II. 第101(臨時)教区会議事録朗読を書記から受け承認した。

III. 教区内の課題や人事について主教の諮問に応えた。

IV. 大阪・京都両教区の「宣教協働に関する合意書」について協議を継続することとした。

6月9日(第8回定例)

### 1. 主教報告

① 5月27日、趙鍾必執事の司祭按手式(ソウル)があり、常置委員長・岩城司祭、大阪聖ヨハネ教会管理牧師・内田司祭および関係信徒らと列席した。この日付をもって彼の大阪聖ヨハネ教会牧師補を解任し、28日付けで主教座聖堂付きとする辞令を出した。なお、住居は富田林聖アグネス教会牧師館とし、入居に必要な改修を命じた。

② 5月22日付けで各教会に「新型コロナウイルス感染症防止」について文書を出した。

③ 日本聖公会宣教150周年記念事業にあたり、主教会

教書と記念特祷が、全教会に於いて5月31日に朗読されるよう配布した。出来るだけ用いて頂きたい。

④ 教会の代表役員登記、防火管理者届け、その他不動産管理などが行き届いているかどうか、教区内22教会に於いて確認して欲しい。また入居していない牧師館などの管理もしっかりお願いしたい。

### 2. 教務局長報告(別紙)

① 外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会主催の「他民族・多文化共生キリスト者青年」現場研修プログラム(7月28日～8月4日)に、聖贖主教会から眞子義人さんが参加の予定。

② 8月5日から1泊で行なわれる神戸教区および広島復活教会共催の「広島平和礼拝2009」には聖職1名、信徒1名が招待されている。

③ 8月13日から4泊で行なわれる「日韓聖公会青年セミナー」(韓国)には聖贖主教会の荻野直人さんが出席の予定。

### 3. 協議事項

I. 第7回(5/12) 議事録を承認した。

II. 教役者の2009年度夏季手当支給額を承認した。

III. 人事について主教の諮問に応えた。

IV. 教区間協働に関して

\* 京都教区と常置委員会レベルで合意文書を交わすことについて協議。

V. 台湾聖公会との関係について

\* 今年3月、台湾に向き、更に3年間の交流を更新契約した。

\* 同じ教会名、同じ事業など、協働出来る関係を積極的に勧めたい。

VI. 法人一元化、教会の統合、再配置の課題などについて協議した。以上





大阪聖ヨハネ教会

ヨハネ 趙 (6月28日) 演馨

ローレンス 趙 (6月28日) 演優

(6月28日)

魂の平安を祈ります

大阪聖ヨハネ教会

ヨハネ 長谷 (5月28日) 隆二

(5月28日)

ステパノ 平岡健二郎 (7月20日) 85歳

(7月20日)

芦屋聖マルコ教会

ヨセフ 鷺尾禮之介 (5月21日) 76歳

(5月21日)

尼崎聖ステパノ教会

マリア 丹野 秀子 (5月23日) 78歳

(5月23日)

恵我之荘聖マタイ教会

ステパノ 永田 正隆 (6月1日) 66歳

(6月1日)

マリア 染井 正子 (7月25日) 92歳

(7月25日)

教会・施設の動き

桃山学院大学チャペル

○8月27日(木)午後5時30分開場、午後6時開演 桃山学院創立125周年・大...

堺聖テモテ教会

ンと仲間たち」によるアフリカ民族楽器を中心とした躍動感あふれる打楽器演奏...

石橋聖トマス教会

○5月31日の聖霊降臨日に教会創立120周年記念礼拝。記念事業の一環として家庭...

○8月21日(金)には、午後2時から「夏休み子ども映画会」と題して、デイズニ...

教区関係教役者 逝去者記念聖餐式

◇9月9日(水) 11:00 ~

於:主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 磯 晴久司祭

- 4日 執事 ラザロ 布施 好古(1938)
6日 主教 ヨハネ 名出 保太郎(1945)
9日 司祭 ジェームズ・J・チャプマン(1946 英)
11日 司祭 チャールズ・ハムデン・バジル・ウッド(1941 英)
12日 主教 ヘンリー・エヴァントン(1912 英)
14日 宣教師 ドロシー・サローム・ワインウイelson(1963 英)
23日 主教 ペテロ 柳原 貞次郎(1973)
司祭 ドナルド・F・ウインズロー(2000 米)
25日 司祭 田中 正之助(1927)
27日 宣教師 エルシー・メイ・ベイカー(1977 英)

◇10月14日(水) 11:00 ~

於:主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 内田 望司祭

- 2日 司祭 ジョージ・チャプマン(1940 英)
9日 主教 ヨハネ 山田 襄(1993)
12日 司祭 マルコ 岡 精三(1997)
16日 主教 ペテロ 松井 米太郎(1946)
主教 サムエル・ヘーズレット(1947 英)
18日 司祭 ステパノ 木庭 孫彦(1928)
20日 司祭 チャールズ・セオドア・ワレン(1949 英)
23日 司祭 ステパノ 遠藤 敏雄(1971)
24日 司祭 深田 直太郎(1945)
司祭 ペテロ 横田 久明(1995)
25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン(1971 英)
29日 司祭 セオドシアス・ステファンズ・ティング(1927 英)

\*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前11時から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご出席ください。